

## 二極化する都市祭礼 宮城県仙台市の「どんと祭」の実施件数および参拝者数に注目して

著者	高橋 嘉代
雑誌名	論集
巻	37
発行年	2010-12-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00130299">http://hdl.handle.net/10097/00130299</a>

## 二極化する都市祭礼

——宮城県仙台市の「どんと祭」の実施件数および参拝者数に注目して——

高 橋 嘉 代

### 1. はじめに

「どんと祭」とは、宮城県仙台市およびその近郊における「左義長（さぎちょう：小正月におこなわれる火祭り）」の通称である。これは注連縄や門松などの正月飾りを野外で焼却する行事で、主に社寺の境内地において1月14日から15日にかけて実施される。この祭の発祥は近世に遡るとされるが、現在仙台市内で開催されているどんと祭の多くが終戦後から実施されるようになった比較的歴史の浅い祭である。

どんと祭は野外で火を燃やす行事であるため、開催に先立って所管の消防署に届け出る必要がある<sup>1</sup>。仙台市消防局によると、平成20年から22年にかけては毎年市内全域で150件程度のどんと祭開催の届出がある<sup>2</sup>。冬期の夜間に開催される行事であるため、当日の天候によっては中止・延期される例もあり、実際の開催件数が届出数よりも若干少なくなる年もある。

仙台市内で開催されるどんと祭の中でも特に規模が大きいのは大崎八幡宮（仙台市青葉区）で開催される「松焚祭（まつたきまつり）」である。2005（平成17）年1月に仙台市無形民俗文化財に指定された「松焚祭」は、数あるどんと祭の中でも最も歴史が古くまた規模も大きく、どんと祭の象徴的存在となっている<sup>3</sup>。14日夕刻から15日未明まで、会場付近の幹線道路に交通規制が布かれる中、毎年数万人から数十万人の参拝者がある<sup>4</sup>。当日は仙台駅—大崎八幡宮

1 仙台市火災予防条例（昭和48年3月27日条例第4号）第五十七条（火災とまぎらわしい煙等を発するおそれのある行為等の届出）において、所轄消防署長への届出が定められている。

2 仙台市には消防署が6署あり（青葉区2署、宮城野区・太白区・若林区・泉区各1署）、毎年各署へ20件から30件の届出がある。

3 「松焚祭」という名称は大崎八幡宮で開催されるどんと祭の固有名詞であるのだが、比較的新しいどんと祭の中でもこの名称が冠された例があり、大崎八幡宮の松焚祭がどんと祭のモデルケース的扱いになっていることが伺える。

4 近年の参拝者数は数万人であるが、1月15日が祝日（成人の日）であった当時は

間のシャトルバスが運行される。「松焚祭」では毎年、地元企業や大学の研究室などの有志による「裸参り」が行われており、白の股引に晒巻き（女性は白の襦袢）姿で行灯や提灯を片手に大崎八幡宮へと向かう裸参りの一行の姿は「松焚祭」の見どころの一つとして毎年地元マスコミに紹介されている。

このように、仙台市のほぼ全域で開催され、毎年数十万の人出のある祭礼でありながら、これまで市内全域のすべての事例を網羅したかたちでのどんと祭研究はほとんど行われていなかった<sup>5</sup>。そこで筆者は現在仙台市内で実施されているどんと祭の総てに注目し、その分析を試みようとしている。本稿はそのための基礎データの提示と分析を狙いとしており、近年仙台市内で実施されたどんと祭の実施件数、および参拝者数に焦点を据える。この作業を通して地方都市において繰り広げられる都市祭礼研究の一助となしたい。

## 2. 都市の祭礼－「見物（けんぶつ）」の登場から

柳田國男は『日本の祭』において、「見物」と称する群れの発生をわが国の祭の最も重要な変わり目と指摘した。この「見物」とは、「信仰を共にせざる人々、言わばただ審美的立場から、この行事を観望する者」（柳田〔1962〕1997：248）である。もちろん審美的立場から祭を観望する群衆自体は近代以前にも既に現れていたし、都市のみならず村落においてもこのような態度は存在していた。その上で柳田が「見物」の出現をもって特にわが国の祭の転換点とみなした理由は、この「見物」たちが祭の担い手たちと「信仰を共にせざる」ところにある。「見物」の発生によって「神社を中核とした信仰の統一はやや毀れ、しまいに<sup>1</sup>は<sup>2</sup>村<sup>3</sup>に<sup>4</sup>住<sup>5</sup>み<sup>6</sup>な<sup>7</sup>が<sup>8</sup>ら<sup>9</sup>も<sup>10</sup>（傍点部引用者）祭はただ眺めるものと、考えるような気風をも養った」（柳田〔1962〕1997：同）。この指摘は（個々人の宗教意識はさておき）氏子集団や檀信徒集団、そして勿論祭礼組織など、社会的に信仰を共有するとされる集団、いわば社会的な信仰圏の外部に

---

毎年数十万人の参拝者があったという。

- 5 2006年に仙台市教育委員会から発行された『仙台市文化財調査報告書第305集 大崎八幡宮の松焚祭と裸参り』では、大崎八幡宮の歴史や仙台のどんと祭の展開と変容について、正月送り行事や他県の事例なども踏まえた詳細な報告がなされている。同書は仙台の市街地で実施されるどんと祭・郊外で実施されるどんと祭双方の複数の事例も紹介された優れた先行研究であるのだが、仙台のどんと祭を全数レベルで把握し、その特徴を明らかにする作業には至っていない。

ある人々が、祭の時間・空間の中に祭の鑑賞のためだけに入ってくるようになり、村の住民たちも彼等彼女らの態度の影響を受けるようになっていった、ということも示唆している。

そしてこの「見物」たちは、祭の場に集まっている人々の属性を変えただけではなく、祭の担い手たちの態度も変えた。すなわち「見物」の登場によって祭は伝統的なスタイルをも踏襲する一方、「見られる祭」としての性格も備えるようになったことを柳田は指摘している。つまり、「見物」たちによる祭りを見る視線と、祭の担い手側における「見られている」という意識および「見られていること」を念頭に置いた種々の行動によって支えられるようになったことが、まさに祭の転換点なのである。

柳田は祭を「ケンブツする」集団、いわば audience 群の出現に祭の転換点を見た。「常民」の生活への肉迫を旨としていた彼らしく、祭についての抽象的な本質論というよりは、むしろその時代その時代に生きる民衆の生活感覚、日常意識に立脚した「祭の近代化論」と言い得るだろう。祭を外から見る視線・祭りを見せようとする態度が都市の祭り・祭の都市化の大きな特徴をなすという立場においては松平誠による、祭りを「ミる・スる・ミせる」態度についての議論が挙げられる。松平（1990）の定義する祝祭とは「日常世界の反転、それからの脱却と変身によって、日常的な現実を客観化・対象化し、それによって感性の世界を復活させ、社会的な共感を生みだす共同行為」（松平 1990:2）である。ここには日常語としての「お祭り騒ぎ」のほぼ総てが分析の対象として含まれる。つまり、神社や仏閣の祭礼も、行政や企業による「イベント」も、松平は同様に祝祭として分析の俎上に置いている。つまり人々の日常意識に立脚し「人々が集まって楽しく賑やかにすること」それ自体をとらえ、「お祭り騒ぎ」を単なる烏合の衆が騒いでいるものとしてではなく、現代社会を生きる人々が自由な楽しみの追求に向かおうとする行動として把握しようとしているわけである。その上で松平は、高円寺阿波踊りといったいわば新しい都市祭礼や、府中の祭りといったいわゆる伝統的な祭礼を例として取り上げつつ、「ミる」者・祭を「スる」者・そして祭を「ミせる」者、この関係が曖昧となっているところに都市祝祭の特徴を見た。

松平の議論においては祭の performer と audience の区分が曖昧になったことはわかって、祭礼組織や祭の実行委員会などの祭の「実動部隊」、いわば祭

の manager の位置づけが不明確という限界がある。とはいえ祭の performer がまた同時に audience でもあるという彼の指摘は、柳田の表現を借りて述べれば、見物が単に祭りを審美的立場から鑑賞する存在に唯々諸々と留まっているのではなく、祭の場に積極的に関わり、その様子を他の見物に「見せる者」でもあるということであり、本稿で取り上げるどんと祭の特徴と極めて近い。

ここで改めてどんと祭の「祭礼としての特徴」について述べよう。どんと祭は正月飾りを焼却する火祭りとして位置づけられている。火祭りであるが故、祭が終わるまでの間ずっと火を絶やさず燃やし続けていなければならない。この燃料になるのがすなわち、人々が祭の場に持ち込む正月飾りなのである。正月飾りを持ち込む人がいなければ、どんと祭はどんと祭として立ち行かなくなる。正月飾りを携えてどんと祭の会場に向かう人々は、既に自分よりも先に正月飾りを持ち込んだ人々やその人たちが持ち込んだ正月飾りを燃やし続けている炎…といったどんと祭を構成するあらゆる要素をミル者たちである一方で、自分たちもまた正月飾りを火にくべ、祭の成立に不可欠である炎を燃やし続けていると言う点において祭をスル・祭をミせる者たちでもある。このような祭であるが故、どんと祭は都市の祭礼としての特徴を本来的に備えているということができよう。その一方でどんと祭は、真冬の夜に野外で長時間火を燃やす行事であるが故、開催にあたって当該地域内の様々な生活組織の協力が欠かせない。このため、いちじるしい観光化が進む事例がある傍ら、祭の運営担当者の（そして勿論祭をミル・スル人々の）負担に「配慮」して、敢えて拡大・観光化の路線は取らずに祭を行っている事例も考えられよう。このようなこともまた都市で執り行われる、都市生活を送る者がその担い手となる祭礼として、可能性としてあり得る事であろう。

このような特徴を持っているため、どんと祭は都市祭礼研究において様々な課題を与えてくれる祭と言える。ただし様々な課題が見え隠れしている祭であるが故に、分析の俎上に載せるに先立ち、実施件数や参拝者数といったどんと祭の基礎データについてあらかじめ論じておく必要がある。実施件数はこの祭のいわば生命力を示す指標のひとつであり、参拝者数はミル・スル・ミせる者たちの集団としての規模を示していると言いうるからである。

### 3. 使用資料について

本稿で使用する資料は2008（平成20）年から2010年までに作成された「どんと祭実施結果報告書」「どんと祭消防特別警戒実施結果」である<sup>6</sup>。これらの資料は2010年2月24日に仙台市消防局で閲覧、後に仙台市に複写許可を申請し許可を得た。

現在仙台市は青葉区・宮城野区・若林区・太白区・泉区の五つの区から成り立っている。各区を管轄する消防署の分署が青葉区では二署（青葉分署・宮城分署）、宮城野区以下の五区ではそれぞれ一署（宮城野分署・若林分署・太白分署・泉分署）、合計六署が現在市内に置かれている。青葉区の二署は青葉署と宮城署であり、宮城署は青葉区内における旧宮城郡宮城町に該当する地域を管轄し、青葉署は旧宮城町を除いた地域を管轄している。

どんと祭開催に先立ち、主催者は所轄の消防署に開催予定日時と場所を届け出る。そして当日には消防署員と消防団員が共に会場において警戒にあたるとともに、各会場の参拝者数も確認する。つまり、消防署側からすれば主催者側からの届出がなされることによって当該年度（実施されるのは翌年であるのだが）のどんと祭開催予定が確定されることになり、どんと祭主催者側からすれば消防分署への届出を契機として当該年次における開催の意思を示したことになるわけである。以下の表で紹介するどんと祭の件数および参拝者数は、各年次における各分署への届出数および当日確認された参拝者数が元になっている。したがって各分署で確認したデータ＝各分署が管轄する区域のデータということになるため、以下の表では便宜上「宮城分署で確認されたデータ」「若林分署で確認されたデータ」を「青葉区旧宮城町」および「若林区」のデータとして扱う。

隔年時のデータの紹介に先立ち、本稿で参照とした資料についてその概略を記す。

#### (1) 「どんと祭実施結果報告書」

どんと祭の実施結果について分署ごとに作成される。ここには総ての会場における警戒担当とその区分（常駐・巡回の別）や述べ参拝者数（総数）が記されている。

---

6 これらの資料は3年毎に廃棄するため、平成19年以前の資料は現存しない。

## (2) 「どんと祭消防特別警戒実施結果」

(1)が各分署による個別の会場についてのデータであるのに対し、(2)は分署毎のすべてのどんと祭・市内全域のどんと祭総てのデータがまとめられたものである。ここには各分署における「主要箇所の参拝者数」「どんと祭警戒人員数」「どんと祭各署参拝者数」が記され、これらの項目のうち「主要箇所の参拝者数」と「どんと祭各署参拝者数」の2項目には今回分と前回分との2年分のデータが添付されている。

各分署に届け出られたどんと祭会場の中でも例年特に多くの参拝者を集める会場1箇所から3箇所が「主要箇所」とされており、全部で10箇所ある。各分署の主要箇所は以下の通りである。

青葉分署：大崎八幡宮・東照宮（2箇所）

宮城分署：諏訪神社（1箇所）

宮城野分署：榴ヶ岡天満宮（1箇所）

若林分署：陸奥国分寺薬師堂（1箇所）

太白分署：中田神社・多賀神社・愛宕神社（3箇所）

泉分署：賀茂（加茂）神社・愛宕神社（2箇所）

主催者からの届出がいわばどんと祭の開催登録ということになるため、各年次における届出数がどんと祭データの基本となっている。しかし中には当日何らかの理由によって中止や延期を余儀なくされる例もあるため、届出数と実施件数は毎年数件異なっている。また、どんと祭実施日も「1月14日」「1月14日・15日」「1月15日」「1月14日・15日以外の日」となっているため、各年次のデータには1月14日以外の実施日分のデータも含まれている。

以下紹介する表はこれらの資料から筆者が作成した。

#### 4. どんと祭の届出／実施件数・実施日程

表1は各年次におけるどんと祭の届出件数をその実施日程別にまとめたものである。実施日程別にまとめると共に、中止や延期等の件数も同表に示した。2008年次の届出件数152件、同じく2009年の151件、2010年の149件中、実際に実施された件数はこれらから「中止」を除いた151件（2008年）<sup>7</sup>、150件

7 この年の「中止」どんと祭2件のうち1件においては参拝者数のデータがある。一旦はどんと祭を開催したものの、当初の終了予定時刻を前に中止にしたものと考えら

(2009年), 148件(2010年)となる。少なくとも過去3年間においては各分署において届出・実施が確認されているどんと祭の件数には大きな変化はなく, 20件から30件程度でほぼ一定していることが確認される<sup>8</sup>。とはいえ, 届出件数・実施件数共に僅かながら減少している。これが一次的なものなのか, それとも今後も減少が続いてゆくのかについては現時点ではまだ明らかではない。

実施日程・中止その他について見てみよう。大部分のどんと祭が1月14日に実施されている傍ら, どんと祭を14日と15日の二日間にわたって開催する例, 15日のみに開催する例が毎年十数件確認される。そしてこの実施日程の違いには地域差があることが表からわかる。どんと祭を1月14日・15日の二日間開催する例・1月15日に開催する例は, いずれも仙台市青葉区旧宮城町, 仙台市宮城野区に多い<sup>9</sup>。特に旧宮城町についてはその半数が1月15日開催である。また仙台市太白区でも15日開催が毎年3件ずつ, 泉区でも14日・15日両日開催の報告件数が1件ある。これに対して, 旧宮城町の範囲を除く仙台市青葉区(青葉分署管轄)および仙台市若林区では, 14日・15日の両日開催の例も, 15日開催の例も確認されない<sup>10</sup>。

数は少ないながらも毎年中止・延期されるどんと祭がある。その理由としては強風が挙げられている。中止や延期は青葉区旧宮城町, 宮城野区において確認される。旧宮城町は山間部が多く, また宮城野区では海岸近くに田園地帯が広がっているという地理的特徴があり, 厳冬期の夜間に野外で火を燃やす催しであるため, 当日の天候如何で実施を見合わせざるを得ないことがあるのも頷かされるところである。

このように, 同じく仙台市内で実施されているどんと祭でありながら, 実施

- れる。
- 8 「どんと祭消防特別警戒実施結果」においても各年次のどんと祭届出数は示されている。しかし, 延べ数で記されている年次と実数で記されている年次とがあり, 本稿で示した値とは必ずしも一致しない。個々のどんと祭のありようを可能な限り解きほぐしてゆくことが本研究の長期的な課題であるため, 表1は個々のどんと祭のデータを参照できる「どんと祭実施結果報告書」を元に作成した。
  - 9 「中止」「延期」もこの両地域に多い。
  - 10 2008年のみ, 若林区内で1月12日にどんと祭が開催された例が1件ある。なお, 若林区内で実施されたどんと祭の件数は2008年から2010年までの3年間で変化していない。この事例がこの年のみ例外的に発生したものであるか, あるいはこの年まで毎年12日に開催し, 2009年以降14日に変更したものであるかは現時点では未確認である。



状況には地域差がみられる。表1ではこの地域差を届出／実施件数から示した。それでは、実施されたどんと祭に対する人出はどうであろうか。実施日程でみたような地域差は確認されるのだろうか。そこでこれを明らかにするため、個々のどんと祭に対する人出が「参拝者数」としてが示されている「どんと祭実施結果報告書」と、分署毎に参拝者数の合計を示した「どんと祭特別警戒実施結果」から、改めて主要箇所毎・実施区域毎の参拝者数を年次別にまとめたのが表2である。この表の上段では各主要箇所の参拝者数とその実施区域・総数におけるパーセンテージを、下段では各実施区域の参拝者数とその総数におけるパーセンテージを示した。

## 5. どんと祭の参拝者数

はじめに表2の最下段に示された年次ごとの参詣者数を見てみよう。どんと祭の開催日は毎年1月14日ないしは15日で一定しているため、当該年の開催曜日によって参拝者数が変化すると考えられる。そこで過去4年間仙台市内で開催された総てのどんと祭への参詣者数の推移をみたところ、開催日当日の曜日が参拝者数に影響を及ぼしていることが伺える結果となった。1月14日が日曜日の2007（平成19）年、祝日であった2008（平成20）年の両年では全市におけるどんと祭の参詣者数はいずれも33万人を超えた。これに対して14日が平日の2009（平成21）年・2010（平成22年）では参詣者数はそれぞれ約29万人、約27万人となり、特に2009年では前年の参詣者数と比べ1割以上のマイナスである。

表2の下段からは更に、届出／開催件数と共に、どんと祭の参拝者数にも一定の地域差があることが伺える。青葉区・泉区・太白区は宮城野区・若林区と比べるとどんと祭の参拝者が多く、これら3区域において実施されるどんと祭の参詣者数は全市におけるどんと祭の参詣者の9割近くを占めている。

青葉署と宮城署の2署でどんと祭の警戒に当たる青葉区は市内で最もどんと祭の参拝者が多い。表中で「青葉区」「青葉区旧宮城町」として表されている箇所の合計が青葉区全体の参拝者数ということになるので、青葉区のみでどんと祭には毎年十数万人、すなわち仙台市の人口の1割以上に相当する人出があるということになる。総数に占める青葉区の参拝者の値も高く、2009（平成21）年を除き市内で開催される総てのどんと祭の参詣者のうち、青葉区で開

催されたどんと祭の参詣者が過半数を占めている。そして青葉区の中でも特に青葉署管轄の（旧宮城町を除いた区域で開催される）どんと祭では参詣者が多く、毎年全体の4割を超える人出がある。

続いて多数の参拝者が現れるのが太白区と泉区である。いずれも参拝者数は青葉区の3分の1から半数程度であるのだが、それでも2区合わせて毎年10万人程度の参拝者が集まっている。これに対して宮城野区（宮城野署）・若林区（若林署）で開催されたどんと祭の参拝者数は目立って少ない。

次に表2の上段に注目したい。この部分から、各主要箇所がその実施箇所の中で、そして当該年次のどんと祭全体の中でどの程度参拝者を集めているのかわかる。大崎八幡宮は実施区域の中でもそして当該年次における総てのどんと祭の中でも最も規模が大きく、実施区域内におけるどんと祭の参拝者のおよそ半数、当該年次の総てのどんと祭参拝者のおよそ2割の参拝者がここに集中していることが確認できる。大崎八幡宮に次いで多くの参拝者を集めるのが東照宮であり、旧宮城町を除く仙台市青葉区のどんと祭のおよそ8割、全市のどんと祭の3割から4割程度の参拝者がこの2箇所におけるものである。これら2箇所を含めた主要箇所10箇所のみに、各年次のどんと祭における過半数の参拝者が占められているのである。

大崎八幡宮と東照宮を除く8主要箇所では、いずれも総数に占める参拝者数の割合はさほど高くはない。しかしいずれも各区の「主要箇所」であるだけあって実施区域内に占める割合は概して一泉区の愛宕神社は例外とするにしても高い。特に目を引くのは諏訪神社である。4年間を通して1万2000から3000の参拝者を集めているこの会場では、開催区域である青葉区旧宮城町内のどんと祭の8割程度の人出が4年間を通して確認されている。

## 6. 小活

表1・表2によって、仙台市のどんと祭の凡の現状を把握することができた。平成20年代初期における仙台市では、およそ150件のどんと祭が行われている。その9割程度が1月14日に、1割が1月15日に実施されている。数は少ないが1月14日・15日の二日間にわたってどんと祭を実施している例もある。そして日程等の実施状況には地域差がある。

どんと祭への人出は参拝者数として表される。日程が決まっている行事なの

で、どんと祭全体の参拝者数は当日および翌日が平日であるか休日であるかに依存している。どんと祭の中でも特に規模が大きい、参拝者の多いどんと祭があり、これらのどんと祭の参拝者のみで全体の過半数が占められている。

つまり、21世紀の現在実施されているどんと祭は、参拝者数に注目する限り、少数の大規模どんと祭と、多数の中小規模どんと祭とに二極化していると考え得るのである。そこで次に、個々のどんと祭の参拝者数に注目する。個別どんと祭の参拝者数から、現在開催されているどんと祭の参拝者の規模が如何なる分布を見せているかを明らかにしたい。

## 7. 参拝者数からみたどんと祭実施件数

どんと祭の参拝者数の分布は広い。大崎八幡宮や東照宮のように毎年数万人の参拝者が報告される事例もあれば、参拝者が10人にも充たないきわめて小規模な事例も確認されている<sup>11</sup>。したがって該当する参拝者数毎に実施件数を求めるのは煩瑣を極めるので、1000人を単位として実施件数をまとめた。

既に見てきたように、件数としては少ないながらもどんと祭を1月14日と15日の両日にわたって実施する例が毎年数件ある。しかし両日開催の事例の場合、資料では1月14日分と15日分の両方の参拝者数が記録されているもの・14日の参拝者数のみが記載されているが15日の参拝者の記載がないもの・両日の参拝者数としてそれぞれ同じ値が記載されているものがあり、特に15日実施分の参拝者数の扱いが一定していない。そこで本稿では、14日・15日両日開催の事例については14日分として記されている参拝者数のみを扱うことにする。

この条件のもとで作表したのが表3である。表1および表2で示された値からもどんと祭の二極化の傾向が伺い得たが、表3ではこの傾向がより明確に示されている。いずれの年次においても参拝者数1000人未満のどんと祭が全体の7割程度を占めているのに対して、参拝者数が1万人を超える大規模どんと祭は10件にも充たない。少数の大規模どんと祭については既に表2で取り上げているので、今度は参拝者数1000人未満の、いわば中小規模のどんと祭に焦点を据えよう。

---

11 参拝者10人未満のどんと祭は、2008年は2件、2009年は3件、2010年は2件ある。いずれも青葉区旧宮城町で実施されるどんと祭である。

参拝者数1000人未満のどんと祭を更に100人単位で集計した結果が表4の値である。参拝者1000人未満のどんと祭のみに限ったデータであっても、本表に示された値は、参拝者1000人未満のどんと祭の中だけでも既に参拝者規模の二極化の傾向が現れていることを伺わせている。表4は100人単位で集計してあるので、最小の範囲は「参拝者数100人未満」になるのだが、ここに該当する件数が最も多く、各年次の実施件数からみても、その4分の1程度を占めているのである。ここから順に上位の範囲へと目を転じてゆくと、「参拝者数300－399人」を境として、それ以降の範囲での該当件数が目に見えて少なくなる。この変化は表3に示されたものと良く似ている。

表3・表4から見る限り、どんと祭をその参拝者の規模からみると該当件数の分布に波があることが伺える。一般に参拝者数が多いどんと祭は少なく、参拝者数の少ないどんと祭は多い。これは単位となる参拝者数の範囲が1000人単位の場合でも100人単位の場合でも大凡あてはまった。

それでは、更に小規模のどんと祭についてより小さい単位で参拝者数の範囲を設定した場合はどうであろうか。表5は表4に示された値から、更に参拝者数500人未満のどんと祭について、50人単位で集計したものである。この規模の範囲におけるどんと祭になると、参拝者数の「波」がより明確にわかる。

参拝者数の「波」は単年次においても、また複数年次においても伺うことができる。いずれの年次でも最も多いのは「参拝者数50人未満」のどんと祭である。次いで多いのは「50－100人未満」のどんと祭である。しかしそれ以上の規模になると、実施年次によって分布に違いが見られる。

2008年の場合、「参拝者数100人－250人未満」の規模のどんと祭の件数は若干少なくなるが、「参拝者数250人－350人未満」までの範囲ではどんと祭の件数が急に増える。この年次に限り、「参拝者数250人－350人未満」までのどんと祭の件数は50人未満のそれを僅かながら上回っていて、参拝者数500人未満の中で、「参拝者数50人未満」と「250人－350人未満」とにおいて、丁度二つの山が現れている状態となっている。これが翌2009年では参拝者数200人未満までのどんと祭が増え、「二つの山」はまだ辛うじて確認できるものの、前年と比較するとより小規模などんと祭が増えたことがわかる。更に2010年では参拝者200人未満のどんと祭が増え、前年までは確認することができた「二つの山」は消滅する。2010年次は実施件数も参拝者数も過去3年で

最小ではあるのだが、大規模どんと祭がなくなった訳ではないので、この年次では特にどんと祭の二極化の傾向が強まったと言えよう。

最後に、参拝者数500人未満のどんと祭を実施区域別に集計し、表5に表した。届出件数でも実施件数でも、また参拝者数においても地域差は確認されていたが、ここでも地域差が現れた。特に顕著なのは青葉区旧宮城町と泉区である。青葉区旧宮城町で実施されるどんと祭はその大部分－9割前後－で参拝者数は500人に充たない。なかでも参拝者数50人未満の、いわば極小どんと祭と言いう程小規模などんと祭が目立って多い。これはこの地域の大きな特徴である。対照的に、泉区のどんと祭では参拝者数500人未満の件数は他地域と比べて目立って少ない。先述の通り、かつてはどんと祭を行っていなかった泉区であるが故、参拝者が見込めない状態でも敢えて祭を実施しようとする意識が他地域（特に旧宮城町）と比較すると希薄であるということが考えられるのだが、未だ検証の段階には至っていない。

## 8. むすびにかえて

以上、本稿では現在仙台市内で開催されているどんと祭について、届出件数・実施件数と参拝者数からその特徴の把握を試みてきた。同じ仙台市内で実施されていても、どんと祭は地域差が大きく、またその規模の二極化が進んでいる祭である。祭りの性質上「みる」者と「する」者との区分が曖昧であるところに都市の祭としてのどんと祭の特徴の一端を伺うことは先述の通り可能であるし、大崎八幡宮をはじめとする「主要箇所」では祭の観光化も進み、都市の祭らしい姿を見ることができるとはいえ、実施日程が異なっていたり、そして何よりも決して大規模とは言えないどんと祭が少なからずあるばかりか、むしろ大多数を占めている現状である以上、都市祭礼としてのどんと祭の姿を解きほぐしてゆくためには、今後はむしろこのようなタイプのどんと祭の動向に目を向けてゆく必要があるのではないだろうか。

実施日程や参拝者の規模の地域差はなぜ現れるのであろうか。個々の実施内容を確認してみると、どんと祭を1月14日にではなく、15日に開催しているのは、青葉区の旧宮城町、そして太白区の南西部の一部の会場にほぼ限られる。この理由として考えられるのは、どんと祭が仙台市全域において比較的ポピュラーな祭礼となる以前から当該地域において行われていた従前の小正月行事に

合わせる形でどんと祭を開催しているということである<sup>12</sup>。そのため、当該地域においては1月14日ではなくて15日こそが、外した正月飾りを処分し、正月を終える日という理解が今なおあり、このためにどんと祭を15日に開催しているということが一つの可能性として指摘できるだろう。

さらに仮説として考えられることは、当該地域においては、1月14日のどんと祭は「ミるための祭」として観光に出かける対象で、翌15日の「地元」のどんと祭が自分たちの正月飾りを処分する、いわば「スるための祭」として扱われているということである。というのも1月15日にどんと祭を実施している地域においては市街地へのアクセスの問題があるからである。仙台市の東西部は南北部に比べると概して公共交通機関が脆弱であり、自家用車以外の交通手段の選択肢が少なくまた移動可能な時間帯および方向もほぼ限定されている。さらに仙台市の西部は山間部、東部は海岸にほど近い田園地帯といった地理的特徴の故に、冬期の夕刻における野外での活動は天候に大きく左右されることになる<sup>13</sup>。こういった制約があるため、当該地域では1月14日は大崎八幡宮等にどんと祭見物に出かける日、15日は自宅で飾った正月飾りを処分する日といったように、同じ祭に対して異なったアプローチをしているということが仮説として考えられるのだが、この検証については今後の課題としたい。

## 謝辞

本稿の執筆に際しては、仙台市消防局および仙台市市政情報センターのご担当者の皆様には並々ならぬご厚意を賜った。大部にわたるどんと祭関連資料の閲覧・複写を快くお許し頂けたことを改めて心より御礼申し上げる。

12 1976（昭和51）年発行の『秋保町史 本編』によると、秋保町（現在の太白区西部に該当する）では注連縄を神棚からおろすのは1月15日であった。小正月行事は14日から行われているが、注連縄をおろすのは15日であり、またおろした注連縄を運ぶ時に叫ぶことを「お正月様を送り申す」（秋保町教育委員会内秋保町史編纂委員会、1976：713）というところ。ただし、1969（昭和44）年発行の『宮城町誌（本編）』では松飾りを外すのは14日で、「付近の神社に松納めをし」（宮城町誌編纂委員会、1969：873）、「夜は『どんと〔ママ〕祭』とて、注連縄、松飾り等を焚き火祭を行う」（同：874）とある。同町では15日には「ちゃせご」と呼ばれる小正月行事が行われていた由であるが、現在ではこの風習は廃れたことが『宮城町誌（本編）』に記されている。

13 どんと祭の中止や延期が発生しているのも、主にこれらの地域である。

## 文献

秋保町教育委員会内秋保町史編纂委員会, 1976『秋保町史 本編』宮城県名  
取郡秋保町.

泉市誌編纂委員会(編), 1986『泉市誌 下巻』宮城県泉市.

松平誠, 1990『都市祝祭の社会学』有斐閣.

宮城町誌編纂委員会, 1969『宮城町誌(本編)』宮城県宮城町役場.

仙台市教育委員会(編), 2006『仙台市文化財調査報告書第305集 大崎八幡  
宮の松焚祭と裸参り』仙台市教育委員会.

仙台市消防局, 2008-2010「どんと祭実施結果報告書」仙台市消防局資料.

仙台市消防局, 2008-2010「どんと祭消防特別警戒実施結果」仙台市消防局  
資料.

柳田國男〔1942〕1990,「日本の祭」『柳田國男全集13』筑摩書房:211-430.

表1：宮城県仙台市におけるどんと祭件数（2008-2010年）

実施日程	青葉区			青葉区旧宮城町			宮城野区			若林区		
	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年
14日実施	22	21	20	14	14	13	23	25	25	26	27	27
14日・15日実施	0	0	0	0	0	0	5	4	3	0	0	0
15日実施	0	0	0	10	12	13	2	0	2	0	0	0
中止	0	0	0	※）2	1	0	0	0	0	0	0	0
延期	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	22	21	20	26	27	27	30	30	30	27	27	27
備考									12日実施1			

  

実施日程	太白区			泉区			総数		
	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年	2008年	2009年	2010年
14日実施	25	24	25	18	18	16	128	129	126
14日・15日実施	0	0	0	1	1	1	6	5	4
15日実施	3	3	2	0	0	0	15	15	17
中止	0	0	0	0	0	0	※）2	1	0
延期	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	0	0	1	0	0	0	1	0	1
計	28	27	28	19	19	17	152	151	149
備考			実施場所のみ記載！				12日実施1		実施場所のみ記載1

※）うち1事例には参拝者数の記載あり。

(仙台市消防局資料より作成)



表2:実施区域毎および主要箇所の参拝者数(2007-2010年)

	2007年			2008年			2009年			2010年		
	参拝者数	実施区%	総数%	参拝者数	実施区%	総数%	参拝者数	実施区%	総数%	参拝者数	実施区%	総数%
大崎八幡宮	82698	51.2	24.9	85000	53.6	25.4	58942	49.5	20.6	54590	42.3	20.1
東照宮	51500	31.9	15.5	51800	32.6	15.5	35700	30.0	12.5	49200	38.1	18.1
諏訪神社	12500	81.0	3.8	13500	81.5	4.0	13000	77.7	4.5	13500	84.7	5.0
稲ヶ岡天満宮	2000	11.7	0.6	※3) 3970	21.5	1.2	2500	13.6	0.9	※1) 2050	13.2	0.8
陸奥国分寺薬師堂	19500	60.5	5.9	13100	56.9	3.9	7900	42.8	2.8	9600	42.0	3.5
中田神社	10000	19.7	3.0	8800	15.1	2.6	6500	13.3	2.3	6500	13.8	2.4
多賀神社	6000	11.8	1.8	7200	12.3	2.2	6000	12.3	2.1	6800	14.4	2.5
愛宕神社(大白区)	11000	21.6	3.3	18000	30.8	5.4	10297	21.0	3.6	11000	23.3	4.0
寛茂(加茂)神社	22332	40.9	6.7	26032	44.3	7.8	18088	28.2	6.3	※2) 18041	43.7	6.6
愛宕神社(泉区)	8200	2.5	2.5	4930	8.4	1.5	1800	2.5	0.6	5800	14.0	2.1
主要箇所計	225730	-	68.0	228362	-	68.4	160527	-	56.1	156990	-	57.7
青葉区	161578	100.0	48.7	158705	100.0	47.5	119117	100.0	41.7	129180	100.0	47.5
青葉区旧宮城町	15430	100.0	4.6	16561	100.0	5.0	16730	100.0	5.9	15938	100.0	5.9
宮城野区	17147	100.0	5.2	18492	100.0	5.5	18445	100.0	6.5	15540	100.0	5.7
若林区	32219	100.0	9.7	23031	100.0	6.9	18453	100.0	6.5	22832	100.0	8.4
太白区	50826	100.0	15.3	58455	100.0	17.5	48947	100.0	17.1	47265	100.0	17.4
泉区	54638	100.0	16.5	58803	100.0	17.6	64208	100.0	22.5	41321	100.0	15.2
総計	331838	-	100.0	334047	-	100.0	285900	-	100.0	272076	-	100.0

※1)2010年稲ヶ岡天満宮の参拝者中15日参拝者は50人。

※2)2010年寛茂神社の参拝者中15日参拝者は100人。

※3)2008年稲ヶ岡天満宮の参拝者は14日分のみ(15日分の参拝者のデータ不明)。

(仙台市消防局資料より作成)

表3：どんと参拝者数別実施件数（2008-2010年・※1）1000人単位）  
（不明・中止分および14・15日両日開催の15日分除く）

参拝者数	2008(H20)年		2009(H21)年		2010(H22)年	
	件数	%	件数	%	件数	%
1000未満	108	71.5	104	69.3	111	75.0
1000-1999	20	13.2	24	16.0	18	12.2
2000-2999	5	3.3	4	2.7	3	2.0
3000-3999	5	3.3	4	2.7	2	1.4
4000-4999	2	1.3	1	0.7	2	1.4
5000-5999	2	1.3	1	0.7	3	2.0
6000-6999	1	0.7	3	2.0	2	1.4
7000-7999	1	0.7	2	1.3	1	0.7
8000-8999	1	0.7	0	0.0	0	0.0
9000-9999	0	0.0	0	0.0	1	0.7
10000-10999	0	0.0	1	0.7	0	0.0
11000-11999	0	0.0	1	0.7	1	0.7
13000-13999	2	1.3	2	1.3	1	0.7
17000-17999	0	0.0	0	0.0	1	0.7
18000-18999	1	0.7	※2)1	0.7	0	0.0
26000-26999	1	0.7	0	0.0	0	0.0
35000-35999	0	0.0	1	0.7	0	0.0
49000-49999	0	0.0	0	0.0	1	0.7
51000-51999	1	0.7	0	0.0	0	0.0
54000-54999	0	0.0	0	0.0	1	0.7
58000-58999	0	0.0	1	0.7	0	0.0
85000-85999	1	0.7	0	0.0	0	0.0
計	151	100.0	150	100.0	148	100.0

（仙台市消防局資料より作成）

（※1）該当データがない範囲は省略している。

（※2）1月14日・15日の両日に開催されている事例において、同じ参拝者数がそれぞれ両日の参拝者数として記録されている。

表4：どんと祭参拝者数別実施件数（2008-2010年・1000人未満）

参拝者数	2008年		2009年		2010年	
	件数	累積%	件数	累積%	件数	累積%
100未満	34	22.5	37	24.7	37	25.0
100-199	18	34.4	21	38.7	24	41.2
200-299	18	46.4	12	46.7	11	48.6
300-399	12	54.3	19	59.3	15	58.8
400-499	9	60.3	5	62.7	7	63.5
500-599	4	62.9	2	64.0	4	66.2
600-699	3	64.9	7	68.7	5	69.6
700-799	3	66.9	4	71.3	5	73.0
800-899	4	69.5	2	72.7	2	74.3
900-999	3	71.5	0	72.7	5	77.7
計	108	71.5	109	72.7	115	77.7
合計	151	100.0	150	100.0	148	100.0

（仙台市消防局資料より作成）

表5：どんと祭参拝者数別実施件数（2008-2010年・500人未満）

参拝者数	2008年		2009年		2010年	
	件数	累積%	件数	累積%	件数	累積%
50未満	22	14.6	25	16.7	21	14.2
50-99	12	22.5	12	24.7	16	25.0
100-149	9	28.5	10	31.3	12	33.1
150-199	9	34.4	11	38.7	12	41.2
200-249	5	37.7	7	43.3	5	44.6
250-299	13	46.4	5	46.7	6	48.6
300-349	10	53.0	11	54.0	8	54.1
350-399	2	54.3	8	59.3	7	58.8
400-449	4	57.0	3	61.3	4	61.5
450-499	5	60.3	2	62.7	3	63.5
計	91	60.3	94	62.7	94	63.5
合計	151	100.0	150	100.0	148	100.0

(仙台市消防局資料より作成)

表6-参拝者数別小規模地区と祭礼案件数(2008-2010年)

参拝者数	2008年				2009年				2010年				豊後田原郡				豊後宮城野町				豊後田原市			
	豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		田原市		田原市		田原市		田原市		田原市			
	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%
50未満	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	15	61.5	10.7	16	59.3	10.8	10.8	10.8	10.8	10.8	10.8	10.8
50-99	1	4.5	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	2	8.0	1.3	4	15.4	2.7	5	18.5	3.4	3.7	3.4	
100-149	0	0.0	0.0	1	4.8	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	3.8	0.7	1	3.8	0.7	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7
150-199	1	4.5	0.7	1	4.8	0.7	0	0.0	0.0	1	4.0	0.7	2	7.7	1.3	2	7.4	1.3	2	7.4	1.4	1.7	1.4	1.7
200-249	3	13.6	2.0	0	0.0	0.0	2	10.0	1.4	0	0.0	0.0	1	3.8	0.7	1	3.8	0.7	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7
250-299	1	4.5	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	4.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
300-349	3	13.6	2.0	4	19.0	2.7	3	15.0	2.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
350-399	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	5.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
400-449	2	9.1	1.3	1	4.8	0.7	1	5.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
450-499	2	9.1	1.3	1	4.8	0.7	1	5.0	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
計	13	59.1	8.6	8	38.1	5.3	10	50.0	8.6	22	88.0	14.8	24	92.3	16.0	25	92.3	15.9	16.2	16.2	16.2	16.2	16.2	16.2
地域計	22	100.0	14.6	21	100.0	14.0	20	100.0	13.5	25	100.0	16.6	26	100.0	17.3	27	100.0	16.2	27	100.0	16.2	27	100.0	16.2
総計	151	—	100.0	150	—	100.0	148	—	150	—	100.0	150	—	100.0	148	—	100.0	146	—	100.0	146	—	100.0	100.0

参拝者数	2008年				2009年				2010年				2008年				2010年					
	豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区			
	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	
50未満	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	3.3	0.7	2	7.4	1.3	2	7.4	1.3	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7	
50-99	3	10.0	2.0	1	3.3	2.2	4	14.3	2.6	3	11.1	2.0	3	11.1	2.0	4	14.3	2.7	4	14.3	2.7	
100-149	3	10.0	2.0	2	6.7	4.4	5	16.7	3.4	1	3.7	0.7	3	11.1	2.0	3	11.1	2.0	3	11.1	2.0	
150-199	1	3.3	0.7	4	13.3	8.9	2	6.7	1.4	4	14.3	2.6	3	11.1	2.0	4	14.3	2.7	4	14.3	2.7	
200-249	1	3.3	0.7	4	13.3	8.9	2	6.7	1.4	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	3.7	0.7	0	0.0	0.0	
250-299	5	16.7	3.3	2	6.7	4.4	3	10.0	2.0	5	16.7	3.3	2	7.4	1.3	1	3.7	0.7	2	7.4	1.3	
300-349	4	13.3	2.6	2	6.7	4.4	2	6.7	1.4	2	7.4	1.3	1	3.7	0.7	2	7.4	1.3	2	7.4	1.3	
350-399	0	0.0	0.0	5	16.7	11.1	3	10.0	2.0	0	0.0	0.0	2	7.4	1.3	0	0.0	0.0	2	7.4	1.3	
400-449	1	3.3	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	2	7.4	1.3	0	0.0	0.0	1	3.7	0.7	
450-499	1	3.3	0.7	0	0.0	0.0	1	3.3	0.7	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7	
計	19	63.3	12.6	20	66.7	44.4	20	66.7	13.5	19	70.4	12.6	20	74.1	13.3	19	70.4	12.8	20	74.1	13.3	
地域計	30	100.0	19.9	30	100.0	20.0	30	100.0	20.3	27	100.0	17.9	27	100.0	18.0	27	100.0	18.2	27	100.0	18.2	
総計	151	—	100.0	150	—	100.0	148	—	151	—	100.0	150	—	100.0	148	—	100.0	146	—	100.0	146	—

参拝者数	2008年				2009年				2010年				2008年				2010年				
	豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		豊後区		宮城野区		
	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%	件数	地域%	全市%
50未満	2	7.1	1.3	2	7.1	1.3	1	3.7	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	5.9	0.7
50-99	2	7.1	1.3	3	11.1	2.0	3	11.1	2.0	0	0.0	0.0	1	5.3	0.7	1	5.3	0.7	1	5.9	0.7
100-149	3	10.7	2.0	1	3.7	0.7	1	3.7	0.7	2	10.5	1.3	2	10.5	1.3	1	5.9	0.7	1	5.9	0.7
150-199	1	3.6	0.7	1	3.7	0.7	4	14.8	2.7	1	5.3	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
200-249	1	3.6	0.7	1	3.7	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
250-299	1	3.6	0.7	1	3.7	0.7	2	7.4	1.4	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
300-349	1	3.6	0.7	4	14.8	2.7	1	3.7	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
350-399	2	7.1	1.3	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	1	5.3	0.7	1	5.3	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
400-449	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
450-499	1	3.6	0.7	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0
計	14	50.0	9.5	13	48.1	8.7	13	48.1	8.6	4	21.1	2.6	4	21.1	2.6	3	17.8	2.0	3	17.8	2.0
地域計	28	100.0	18.5	27	100.0	18.0	27	100.0	18.2	19	100.0	12.6	19	100.0	12.6	19	100.0	11.5	19	100.0	11.5
総計	151	—	100.0	150	—	100.0	148	—	151	—	100.0	150	—	100.0	148	—	151	—	100.0	148	—

※「中止」とあるが参拝者数が記されたデータが1件ある。

(山形市街地の防犯カメラより作成)

(山口市消防局資料より作成)

※/中止とあるが参拝者数が記されたデータが1件ある。

## A Study on Polarization of Festival in Urban area

Kayo TAKAHASHI

In this thesis, the author analyzes the festival of the Japanese regions city of the 21st century. The festival made the object of the analysis is a festival that is called "Donto-Sai", and this festival is widely held in the Miyagi Prefecture Sendai city. Let's enumerate the feature of this festival. This is a festival held from 14th to 15th in January of every year. This festival is a fire festival that burns big outdoors fire. When the Japanese welcomes the New Year, manners that decorate the room and the doorway of the house with the ornament made from the pine and straw are widely done. These ornaments are removed on around January 14. "Donto-Sai" is the festivals to burn these ornaments.

There are about 150 "Donto-Sai" in Sendai City every year now. And, spectators of this festival are from 200, 000 to 300, 000 people. The spectator has gathered in a specific festival. Therefore, the scale of "Donto-Sai" has polarized to large-scale festivals of a little number and a lot of small-scale festivals.